

第4章 ウルグアイ

—主要農畜産物の動向—

下保 暢彦

1. はじめに

域内での関税撤廃と域外共通関税を実施することを目的とし、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ及びウルグアイの4か国で1995年に発足した関税同盟メルコスールは、2019年7月EUとの自由貿易協定締結に合意したほか、カナダ、韓国とも協定締結に向けた協議が進行中で、我が国との協定に関しても、メルコスール各国首脳や我が国財界等から協議開始の要望がなされているところである。構成する4か国はいずれも農業生産が盛んであり、そのうち大国であるブラジル及びアルゼンチンについては当研究所で従来から研究対象としてきたところであるが、ウルグアイ及びパラグアイについては対象となっていなかったことから、両国の農業の状況を整理することとした。本年はまず、我が国への牛肉輸出もはじまったウルグアイの農業について、国際機関による統計などの公開情報から考察する。

農業生産等の状況に関する考察の前に、前提となる自然、政治・経済等の状況についてみることにする。

(1) 国の概要

国の正式名称は「ウルグアイ東方共和国 República Oriental del Uruguay」で、アルゼンチンとの国境を形成するウルグアイ川の東方に位置することに由来している。また、同国の北東ではブラジルと国境を接しているほか、南方は大西洋に面している。

南緯30°～35°に位置し（地球上で我が国のちょうど反対側にあたる）温暖湿潤気候に属している。

鉱物資源に乏しく、17世紀の欧州諸国による植民活動は当初低調だったが、パンパ（狭義ではアルゼンチンのみに使用）と呼ばれる肥沃な牧草地帯で放牧家畜の繁殖が可能であることがわかり、18世紀に入り最終的にスペインの植民地となった。1825年に独立を宣言、1828年の建国後は順調に発展し、19世紀末から20世紀初頭にかけて隣国アルゼンチンのブエノスアイレスとともに世界的にも最も繁栄した地域の一つとなった。しかし、1950年代後半から深刻な不況に陥り、社会・経済の混乱を契機に、1973年から1985年の民政移管まで続く軍事政権が誕生した。

（２）政治・経済の概要

1985年の民政移管後、2005年から左派政党である拡大戦線による政権が3期15年続き、第1表に示すとおり経済は堅調に推移し、国民一人当たりのGDPは17,120ドルと南米で最高となった。なお、2019年11月に行われた次期大統領決選投票では野党国民党候補が勝利し、2020年3月1日に政権が交代した。

第1表 実質GDP成長率の推移

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
成長率 (%)	7.5	4.1	6.5	7.2	4.2	7.8	5.2	3.5	4.6	3.2	0.4	1.7	2.7

資料：国連 "National Accounts"。

第2表のとおり、人口は346万人（2017年）で、国土面積は南米で2番目に小さく我が国の半分以上にあたる1,760万ヘクタールである。その国土の大半は平地あるいはなだらかな丘陵地であり、全面積の82.1%（世界最高）が農地として利用されている。なお、農地の83%は永年性採草・放牧地である。これを背景として牛の飼養頭数は人口の約3.5倍の約1,200万頭にのぼるほか、後述のとおり、輸出向け農作物の生産が盛んであり、ウルグアイの全輸出額の約3分の2を農畜産物が占めている。

第2表 メルコスール各国の概要

	人 口	GDP 農 林水産業 シェア *	国民一人 当 た り GDP *	輸出の農 産物シェ ア	国土面積 (A)	農地面積 (B)	うち 採草・放 牧地	(B)/(A)	森林面積
年	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017
単位	百万人	%	ドル	%	百万 ha	百万 ha	百万 ha	%	百万 ha
ブラジル	209.3	5.2	9,821	36.5	851.6	235.9	172.6	27.7	493.5
アルゼンチン	44.3	6.7	14,400	56.6	278.0	148.7	108.5	54.3	27.1
パラグアイ	6.8	20.0	4,322	62.6	40.7	21.9	17.0	54.0	17.0
ウルグアイ	3.5	5.7	17,120	65.5	17.6	14.5	12.0	82.1	1.8
<参考>日 本	127.5	1.1	38,220	0.6	37.8	4.4	—	11.8	25.0

資料：FAOSTAT "Population", "Trade"及び"Inputs"。* は 国連 "National Accounts"。

2. 主要農産物の国内需給バランス

ウルグアイの農業生産は、第3表のとおり、自給率が100%前後あるいは100%未満の自給的な農産物（一部輸入）と、自給率が100%を大きく超え国内生産の大部分を輸出する輸出指向性の高い農産物の大きく二つに分類できる。

第3表 主要食料の国内需給バランス (2011-13年平均)

品 名	国内生産量 (A)	純輸出量 (B)	国内需要量 (C)	輸出比率 (B)/(A)	自給率 (A)/(C)
	千トン	千トン	千トン	%	%
穀類計	3,533	2,212	1,434	63	246
米 (精米)	1,167	1,078	89	92	1,303
小 麦	1,510	1,126	584	75	258
大 麦	249	214	28	86	889
いも類	172	▲ 63	234	▲ 36	73
大 豆	2,680	2,578	197	96	1,362
@大豆油	8	▲ 21	25	▲ 245	33
@大豆かす	36	▲ 42	79	▲ 117	46
野 菜	171	▲ 51	222	▲ 30	77
果 実	506	55	454	11	112
牛 乳	2,259	512	1,763	23	128
@脱脂粉乳	628	322	311	51	202
@バ タ ー	28	23	5	82	610
@チ ー ズ	86	45	35	52	245
@ホ エ イ	359	361	36	101	1,001
肉 類	661	398	263	60	251
牛 肉	496	398	98	80	507
羊 肉	43	15	28	35	154
豚 肉	17	▲ 33	50	▲ 195	34
鶏 肉	96	11	84	12	113

資料：FAOSTAT "Food Balance" から作成。

注 (1) @は由来の製品 (加工品) を意味する。

(2) 純輸出量＝輸出量－輸入量, ▲は輸入量の方が多いことを示す。

前者にはいも類, 野菜, 果実, 鶏肉等が該当し, 後者には穀物 (米, 小麦, 大麦 (ビール麦)), 大豆 (大豆製品は除く), 乳製品, 牛肉, 羊肉等が該当する。

以下, 輸出指向農畜産物 (以下「輸出農産物」) を中心に考察していく。

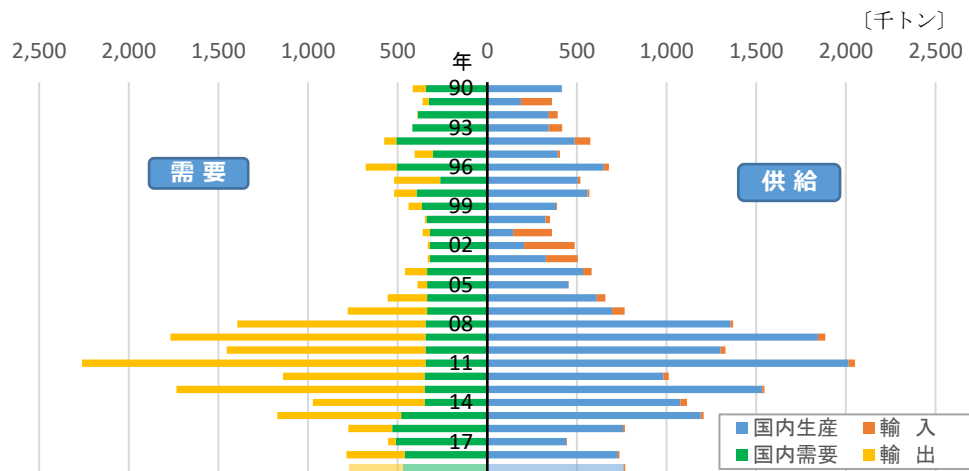
3. 輸出農産物の需給の推移

次に, 四つの代表的な輸出農産物の需給について, 米国農務省 (USDA) の PSD (Production, Supply and Distribution) データを利用し, 30年間 (2019年については予測) における経年変化をみてみよう。

数量が大きく輸出比率の高い小麦, 米, 大豆, 牛肉の4品目について第1図～4図の, 中央の縦軸を挟んで左側が需要量 (国内需要及び輸出), 右側が供給量 (国内生産及び輸入) を表す横棒グラフを作成した。なお, 当該グラフは, 在庫変動や統計上の不突合がなければ, 本来縦軸を中心に左右対称となるべきものである。

(1) 小麦

国内需要量約50万トン前後⁽¹⁾と穀物では最大の小麦については, 2005年頃までは輸出指向よりもむしろ自給的農産物で, 国内生産だけでは不足し輸入に頼る年もあった。しかし, その後は急速に生産が拡大し, それに伴い輸出も順調に拡大し, 2011年には過去最高の192万トンの輸出を記録した。

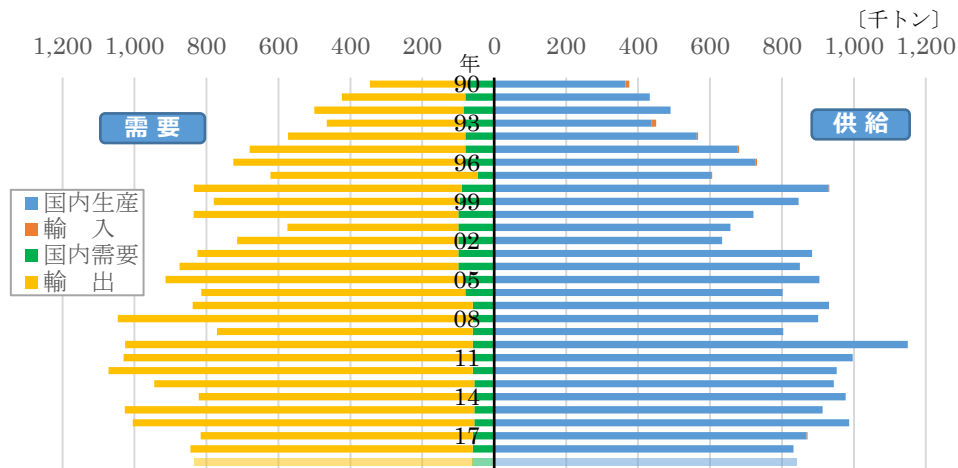


第1図 小麦の需給の推移

資料：米国農務省 "PSD" から作成。

(2) 米

米の国内需要は6～10万トン程度しかないが、従来から輸出農産物として数十万～100万トン国内生産されており、大半（近年では80～100万トン）が輸出に向けられる構図となっている。

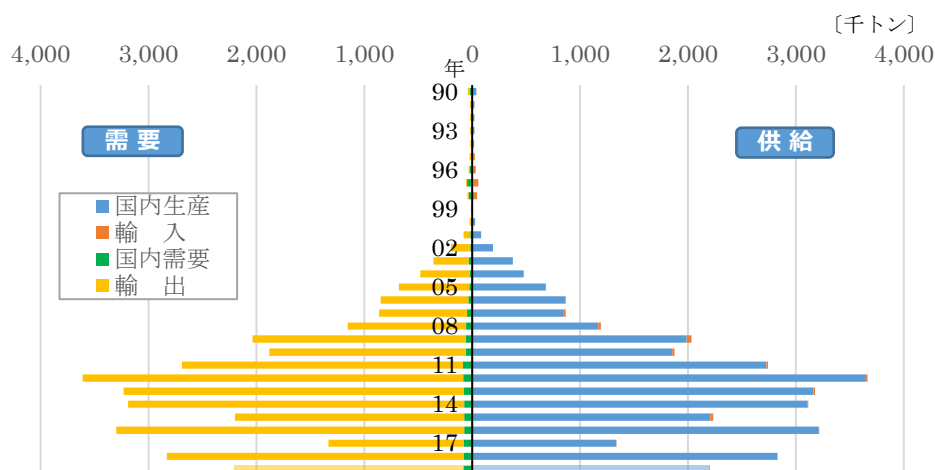


第2図 米の需給の推移

資料：米国農務省 "PSD" から作成。

(3) 大豆

近年では最大の耕種作物である大豆は、2000年以前は細々と栽培されていたが、2000年代に入りアルゼンチン資本の流入（牧草地の購入，賃借）により生産が急速に拡大し、国内需要（加工用を含む）がほとんどなく大半が輸出に向けられている。



第3図 大豆の需給の推移

資料：米国農務省 "PSD" から作成。

(4) 牛肉

広大な採草・放牧地を背景とした牧畜業では従来から牛肉の生産が盛んであり、国民の主要食料であるとともに、重要な輸出品でもあり、その量も近年増加傾向にある。



第4図 牛肉の需給の推移

資料：米国農務省 "PSD" から作成。

注. 1996年の輸出量データが欠落していると思われる。

4. 土地利用からみた農畜産物の状況

国土の82.1%に相当する1,447万haの農地の内訳をみると、国土の大部分がなだらかな丘陵地帯であることを反映し、第4表のとおり、農作物の作付地は17% (247万ha) に過ぎず、残りの83%が永年性の採草・放牧地となっており、牛や羊の飼育を支えている。

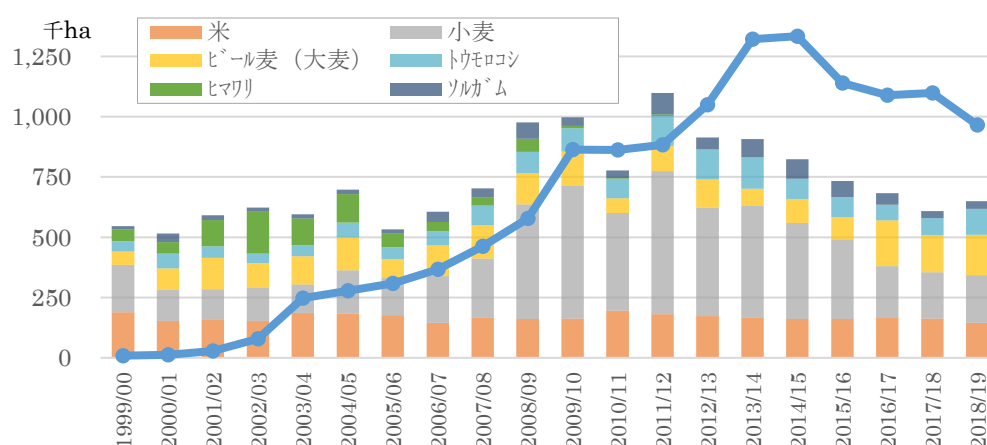
（第4表）。また、作物別に収穫面積（FAO、2017年）をみると、大豆が全体の59.4%、穀物（小麦、米等）が33.7%となっており、併せると93%を超えている。

第4表 農地の内訳（2017年）

項 目 名	(オリジナル名称)	面 積
農 地	Agricultural land	14,469 千 ha
うち 農作物の作付地	Cropland	2,469
耕 地	Arable land	2,430
単年性作物	Land under temporary crops	1,700
単年性牧草地	Land under temp. meadows and pastures	540
休 耕 地	Land with temporary fallow	190
永年性作物	Land under permanent crops	39
うち 永年採草・放牧地	Land under perm. meadows and pastures	12,000
耕作採草・放牧地	Perm. meadows & pastures - Cultivated	1,500
天然採草・放牧地	Perm. meadows & pastures - Nat. growing	10,500

資料：FAOSTAT "Inputs"。

主要作物（大豆及び穀物以外としては菜種、いも、サトウキビ等がある）の作付面積を、ウルグアイ農牧水産省のデータをもとに大豆とそれ以外で分けてみる（第5図）と、折れ線で示した大豆が2000年代に入ってから急激に拡大し、2012年以降は大豆以外の作物の合計よりも多くなっている。輸出作物である米はおおむね15～18万haで推移、小麦は2010年頃には50万haを超える年もあったが、近年では20万ha前後で推移、代わってビール麦（大麦）の作付けが伸びている。2010年頃までは油糧種子としてヒマワリが栽培されていたが、現在は少ない。



第5図 主要作物の作付面積の推移

資料：ウルグアイ農牧水産省「統計年報」から作成。

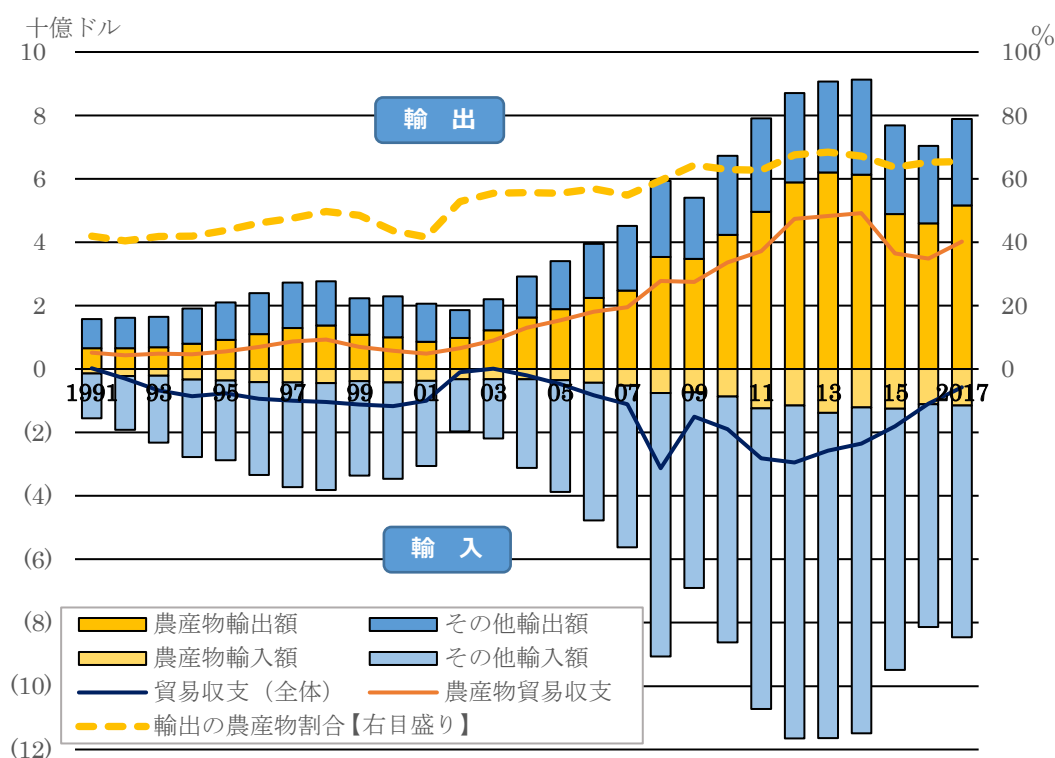
注．本図では、大豆の作付面積のみが折れ線で別表示されているが、作付面積という同じ項目を対象としているので、大豆も積み上げ棒グラフの対象とするのが本来の姿かもしれない。その場合、大豆の変動のみが強調され他の作物の変動が不鮮明となるので、敢えてこのようなグラフにした。

5. 貿易における農畜産物

(1) 全体の商品貿易における農畜産物

近年の全体の商品貿易額を国連食糧農業機関 (FAO) の統計でみると、第6図のとおり、輸出が 70～90 億ドル、輸入が 90～120 億ドルで、貿易収支は毎年 20 億ドル前後の赤字となっている。輸出では農畜産物の輸出額及び割合が高く、また上昇傾向にあり、近年では 65%を超えている。一方農畜産物の輸入は、増加傾向にあるものの限定的であり、農畜産物だけの貿易収支をみると毎年 40 億ドル前後の黒字となっており、農畜産物がウルグアイの貿易において非常に重要な役割を果たしていることが分かる。

なお、ウルグアイには 11 の経済特区（免税地域）があり、特区からの輸出は FAO を含む国際統計には計上されていないため、貿易収支は毎年赤字となっているが、ウルグアイ投資輸出促進庁の分析によると、特区からの貿易を含めた場合、輸出額が全体で 15 億ドル前後大きくなるようになっており、実際の貿易収支は均衡に近いと推察される。



第6図 貿易額の推移

資料：FAOSTAT "Trade" から作成。

(2) 個別農畜産物

輸出品目を HS コード 4 桁のレベルでみると、第5表のとおり、上位 10 位までは農林畜産品が占めており、全体の輸出額に占める農林畜産品の割合も 75%前後と高い。

第6表のとおり、輸入における農林畜産物は限られており、その割合は 6%程度と低くなっている。

第5表 HSコード4桁による輸出上位品目

順位	HS コード	品 目	2014	2015	2016	2017	2018	5年間の 平均
輸出総額 (百万ドル)			9,165.7	7,669.5	6,963.6	7,889.4	7,498.0	7,837.2
1	0202	冷凍牛肉	1,037.2	1,057.9	1,060.3	1,130.3	1,279.5	1,113.0
2	1201	大 豆	1,620.8	1,122.0	857.2	1,200.4	526.8	1,065.5
3	4403	丸 太	439.3	570.7	566.3	695.1	754.5	605.2
4	1006	米	513.1	361.4	413.8	459.4	394.0	428.3
5	0402	濃縮・加糖乳（粉乳）	381.8	357.5	362.8	379.7	458.4	388.1
6	0201	生鮮・冷蔵牛肉	401.8	364.6	376.7	373.2	346.9	372.6
7	0102	生きた牛	140.1	145.6	195.8	221.1	271.0	194.7
8	1107	モルト	186.6	127.8	158.3	182.8	193.8	169.9
9	4104	なめし牛皮	184.0	184.2	148.2	150.3	130.1	159.4
10	0406	チーズ	241.4	140.8	121.9	129.2	120.9	150.8
<参考> 農林畜産物割合*			75.8 %	74.1 %	76.6 %	76.4 %	74.0 %	

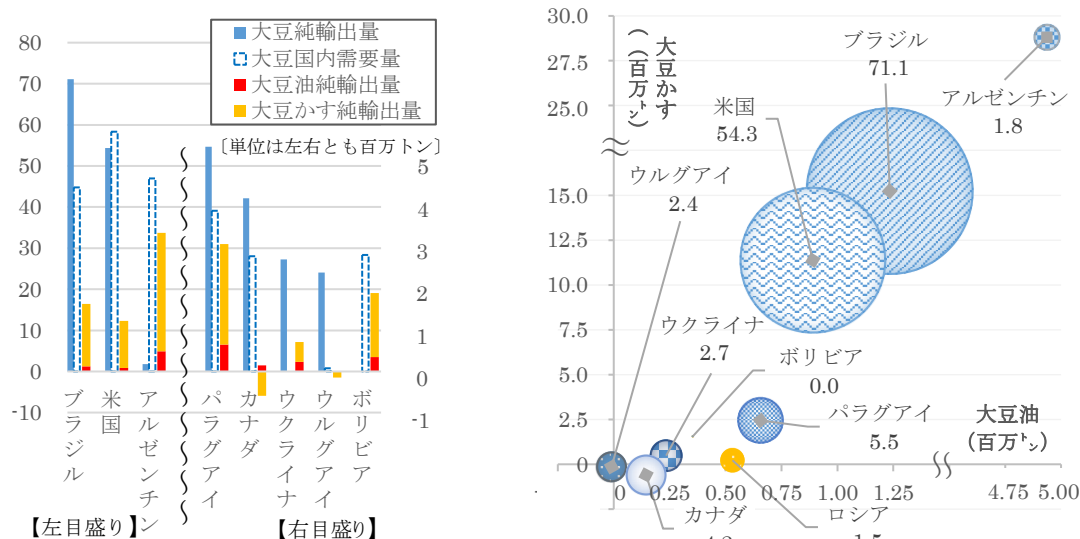
資料：国連 "Comtrade"。農林畜産物割合はウルグアイ農牧水産省「統計年報（2015-19 各年）」による

第6表 HSコード4桁による輸入上位品目

順位	HS コード	品 目	2014	2015	2016	2017	2018	5年間の 平均
輸入総額 (百万ドル)			10,762.3	9,489.4	8,136.6	8,457.9	8,893.2	9,147.9
1	2709	原 油	1,341.0	818.1	677.5	219.2	1,122.2	835.6
2	8703	乗用自動車	387.4	368.8	322.1	409.4	330.0	363.5
3	8517	電話機等	381.5	273.8	283.9	315.7	305.2	312.0
4	8704	貨物自動車	222.6	174.4	160.1	213.9	169.7	188.2
5	3808	殺虫剤・除草剤等	213.5	145.2	121.7	147.0	164.5	158.4
6	3004	医薬品	137.2	149.3	150.3	147.3	157.7	148.3
7	8708	自動車部品	200.5	131.9	60.1	109.9	147.2	129.9
農 産 物	0903	マテ茶	101.7	89.3	71.5	69.0	74.4	81.2
	0203	豚 肉	76.3	71.8	72.8	89.7	82.9	78.7
	1005	トウモロコシ	51.7	44.4	34.3	54.2	121.9	61.3
<参考> 農林畜産物割合*			5.3 %	5.6 %	5.8 %	5.8 %	8.0 %	

資料：国連 "Comtrade"。農林畜産物割合はウルグアイ農牧水産省「年次統計報告（2015-19 各年）」による

なお、主要輸出品目である大豆に関しては、他の輸出国に比べてウルグアイには特徴的な点がある。大豆及び同製品（大豆油及び大豆かす）の国際貿易において、純輸出国といえるのは2大輸出国であるブラジル、米国、次いでパラグアイ、カナダ、ウクライナ、ウルグアイ、アルゼンチンの7か国（2016-18年平均で大豆純輸出量の降順）とボリビア（大豆の純輸出量は僅少だが、大豆製品の純輸出国）の8か国である。



第7-A, 7-B図 大豆輸出国の大豆及び大豆製品の純輸出量 (2016-18年平均)

資料：米国農務省 “PSD” から作成。

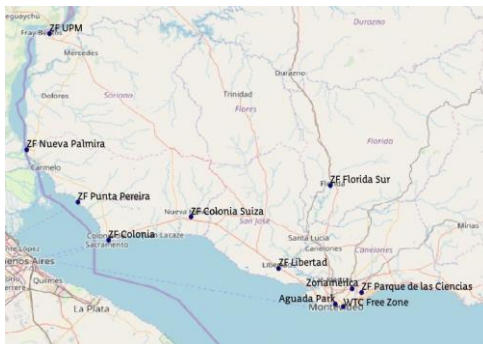
注. 第7-B図 (バブルチャート) におけるバブルの大きさ及び図中の計数は、大豆 (子実) の純輸出入量 (百万トン) を、バブルの色は青が大豆 (子実) の純輸出国、黄が純輸入国であることを表す。

備考. 第7-A図 (棒グラフ) において、左3か国と右5か国のスケールが異なる (10倍) こと、第7-B図においてアルゼンチンが縦横両軸でジャンプしていることに留意願いたい。

これら純輸出国の大豆 (子実) 及び大豆製品別の純輸出量をみると、第7-A及び7-B図のとおり、ブラジル及び米国は子実においても製品においても純輸出の大国である中で、製品において2大輸出国を凌駕しているのがアルゼンチンである。一方ウルグアイは、純輸出8か国の中で唯一、大豆油及び大豆かすについて純輸入国となっている (カナダは大豆かすが純輸入国)。これは、大豆生産がウルグアイで本格化・急増したのが2000年以降と比較的最近のことであり、国内の搾油をはじめとする大豆加工業が未熟であるという供給面の制約が指摘できる。また、需要面においては、大豆油に対する需要は食用としてあるものの、人口規模に応じた需要量であることや、飼料向けが中心の大豆かすについては、ウルグアイ畜産業は放牧による牛、羊等の大家畜が中心であり、濃厚飼料を必要とする中小家畜はあまり盛んでないことなどを要因とした制約があることから、国内生産を行うインセンティブが低いと考えられる。

＜参考＞ 経済特区（Zona Franca / Free Zone）

ウルグアイ国内に 11 ある経済特区（自由地域）では経済活動が原則免税・非課税で行え、うち数か所の経済特区では、農林関係製造業が活動し農産物やその加工品が輸出されている。具体的にはセルロース、大豆、濃縮飲料である。



資料：ウルグアイ投資輸出促進庁「Foreign Trade Report 2018」

例えばセルロースについては、ウルグアイ（税関を通じて）から経済特区へ丸太（ユーカリが主）を輸出し、経済特区でセルロースに加工されて世界各国へ輸出されている。ウルグアイ通関によるセルロースの輸出は皆無で、100%経済特区からの輸出となる。濃縮飲料も 100%経済特区からの輸出で、大豆も 52%が経済特区からとなっている。

経済特区からの輸出を含めると品目別の順位も入れ替わり、下表のとおり、セルロースや濃縮飲料が上位にランクされる一方、丸太はセルロースの原料としてウルグアイ通関による経済特区への輸出が相殺されるため順位が下がる。

順位	品 目	2017 (百万ドル)	2018 (百万ドル)	2019 (百万ドル)	2019 割合	2018 通関・特区別 比率 (%)	
						通関	特区
1	牛 肉	1,512	1,629	1,798	20%	100	0
2	セルロース	1,328	1,660	1,527	17%	0	100
3	大 豆	1,188	526	1,002	11%	48	52
4	乳製品	587	682	649	7%	100	0
5	濃縮飲料	495	472	524	6%	0	100
6	米	447	398	372	4%	100	0
7	丸 太	330	468	359	4%	100	0
8	肉副産物	251	280	302	3%	100	0
9	プラスチック及び同製品	197	233	235	3%	100	0
10	モルト	184	203	216	2%		
11	医薬品	240	227	211	2%	57	43
12	羊毛及び同生地	211	246	186	2%	100	0
13	自動車部品	200	203	181	2%		
14	皮革及び同製品	224	223	155	2%		
	輸出総額（経済特区を含む）	9,048	9,080	9,146	100%		
	輸出総額（経済特区を除く）	7,784	7,475	7,639			

資料：ウルグアイ投資輸出促進庁「Foreign Trade Report 2018」及び「Informe Annual de Comercio Exterior 2019」。

6. 貿易相手国

(1) 全体の貿易

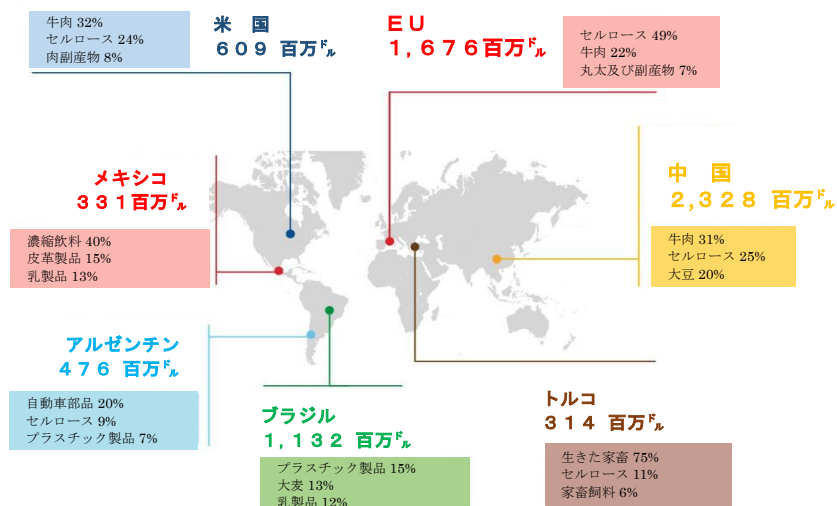
第7表のとおり、輸出入とも中国、ブラジル、EU、アルゼンチン、米国等との取引が多く、我が国との貿易は極めて小さい。また、輸出では、国内の経済特区へのものが10億ドル前後、全体の10数%~20%弱を占めている。

なお、第8図にもあるように、経済特区からの取引を含めても、輸出相手国の傾向はほとんど変わらない。

第7表 貿易の相手国

順位	輸 出 (百万ドル)				輸 入 (百万ドル)			
	国 名	2016	2017	2018	国 名	2016	2017	2018
1	中 国	891	1,481	1,500	中 国	1,532	1,694	1,678
2	ブラジル	1,198	1,299	1,133	ブラジル	1,462	1,646	1,641
3	経済特区	1,314	1,296	951	E U	1,461	1,309	1,118
4	E U	908	867	835	アルゼンチン	1,084	1,064	1,102
5	米 国	452	458	457	米 国	565	923	708
6	アルゼンチン	364	437	409	ナイジェリア	237	187	365
—	日 本	10	9	10	日 本	60	65	60
	輸出合計	6,964	7,889	7,498	輸入合計	8,137	8,458	8,893

資料：国連 “Comtrade” から作成。



第8図 経済特区を含めた主要輸出相手国及び輸出品目 (2018 年)

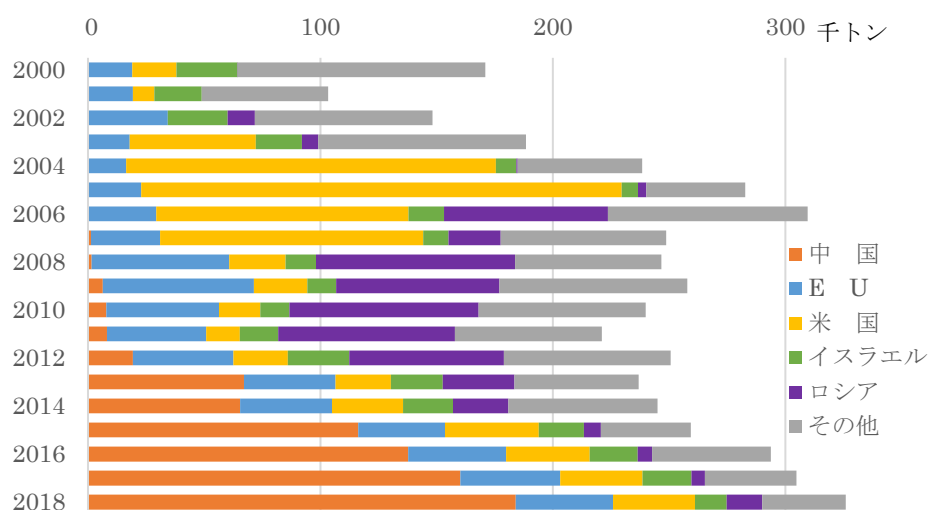
資料：ウルグアイ投資輸出促進庁「Foreign Trade Report 2018」。

（2）主要農産物の輸出相手国

次に、輸出上位農畜産物である牛肉、大豆、米について、それぞれの輸出相手国の変遷を整理する。

1）牛肉（HSコード：0201 及び 0202）

第9図のとおり、牛肉については、2000年代初頭から2010年頃にかけて主要な相手国だった米国やロシア向けが減少したため、一時期輸出量全体が減少傾向にあった。しかし、2010年頃から中国向けが急増し、2018年には18.4万トンと全体の56%（重量ベース）を占めるようになった。またEUに対してはここ数年4万トン前後で安定的に推移しており、全体的としては近年増加傾向にある。



第9図 牛肉の輸出先国別輸出量の推移

資料：国連 "Comtrade" から作成。

第8表 国別輸送形態別牛肉輸出

国	年	0201 生鮮冷蔵牛肉			0202 冷凍牛肉			牛肉計	
		輸出量	輸出額	単価	輸出量	輸出額	単価	輸出量	輸出額
		千トン	百万ドル	ドル/kg	千トン	百万ドル	ドル/kg	千トン (%)	百万ドル (%)
中国	2017	0.01	0.1	10.2	160.2	606.5	3.8	160.2 (53)	606.6 (40)
	2018	0.01	0.1	9.5	183.9	728.1	4.0	183.9 (56)	728.2 (45)
EU	2017	27.2	261.7	9.6	15.7	107.1	6.8	42.9 (14)	368.7 (25)
	2018	25.8	251.3	9.7	16.1	113.6	7.0	41.9 (13)	365.0 (22)
米国	2017	2.4	26.6	11.1	33.5	164.2	5.0	35.4 (12)	190.8 (13)
	2018	1.5	17.6	11.4	33.7	177.5	5.2	35.3 (11)	194.7 (12)
イスラエル	2017	0.00	0.01	5.8	21.0	118.4	5.6	21.0 (7)	118.4 (8)
	2018				13.6	84.3	6.2	13.6 (4)	84.3 (5)
ロシア	2017	0.2	2.6	11.3	5.6	13.6	2.4	5.9 (2)	16.3 (1)
	2018	0.3	3.6	10.7	14.9	52.0	3.5	15.3 (5)	55.6 (3)
世界計	2017	42.1	373.2	8.9	262.6	1,130.3	4.3	304.7 (100)	1,503.5 (100)
	2018	38.5	346.9	9.0	287.4	1,279.5	4.5	325.9 (100)	1,626.4 (100)

資料：国連 "Comtrade" から作成。

注：牛肉計の（ ）内は全体に対する国別のシェアである。

世界の牛肉貿易（輸出）におけるウルグアイの位置づけをみると、第9表のとおり、ウルグアイの2018年の牛肉輸出量は、100万トンを超える輸出大国であるブラジル、オーストラリア、インド、米国には遙かに及ばないが、30～40万トン台のグループに属し、世界第11位に位置する。更に輸入量を差し引いた純輸出量でみると、米国、オランダ、カナダが順位を下げ、ウルグアイは第8位となる。

第9表 牛肉純輸出量の国別順位（2018年）

順位	国名	純輸出量 (千トン)	純輸出額 (百万円)	輸出量 (千トン)	輸出額 (百万円)
1	ブラジル	1,319.0	5,231.1	1,353.7 ①	5,458.2
2	オーストラリア	1,138.6	6,455.9	1,140.6 ②	6,467.9
3	インド	1,111.0	3,382.7	1,111.0 ③	3,382.7
4	ニュージーランド	429.2	2,110.8	435.4 ⑥	2,143.2
5	ポーランド	368.1	1,640.4	390.5 ⑦	1,730.7
6	アルゼンチン	351.9	1,895.7	365.7 ⑨	1,931.9
7	アイルランド	312.1	2,205.0	373.3 ⑧	2,338.9
8	ウルグアイ	309.7	1,562.8	325.9 ⑪	1,626.4
9	パラグアイ	249.2	1,067.6	260.5 ⑬	1,099.2
10	カナダ	214.8	1,093.9	351.2 ⑩	1,911.5
11	ベラルーシ	131.2	483.9	150.7 ⑯	543.7
12	ニカラグア	111.9	480.3	112.0 ⑳	481.0
：					
15	オランダ	63.8	933.6	445.0 ⑤	2,904.8
17	米 国	47.1	2,000.0	1,014.2 ④	7,281.9

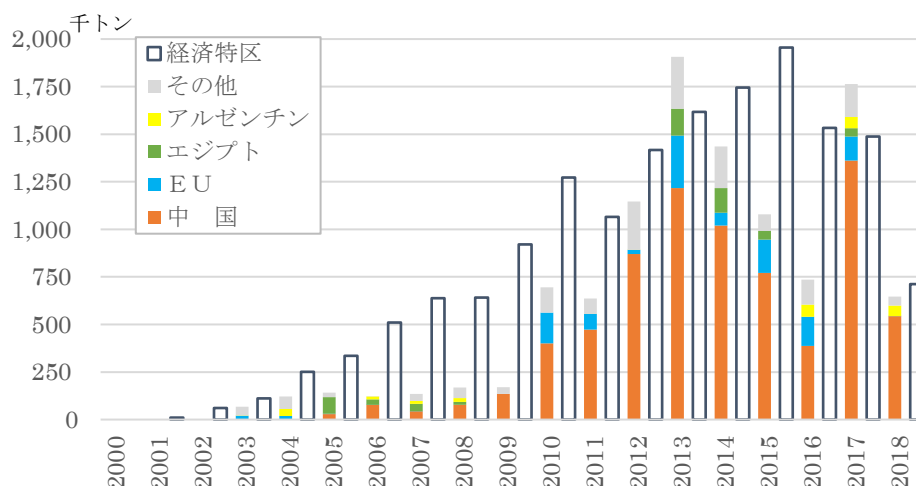
資料：国連 "Comtrade" から作成。

注 (1) 純輸出量（額）＝輸出量（額）－輸入量（額）

(2) 輸出量欄における○数字は輸出量の順位である。

2) 大豆（HSコード：1201）

2000年代に入り生産・輸出が急増している大豆については、上述のとおり、経済特区向けの輸出が年により変動があるものの過半を占めている。



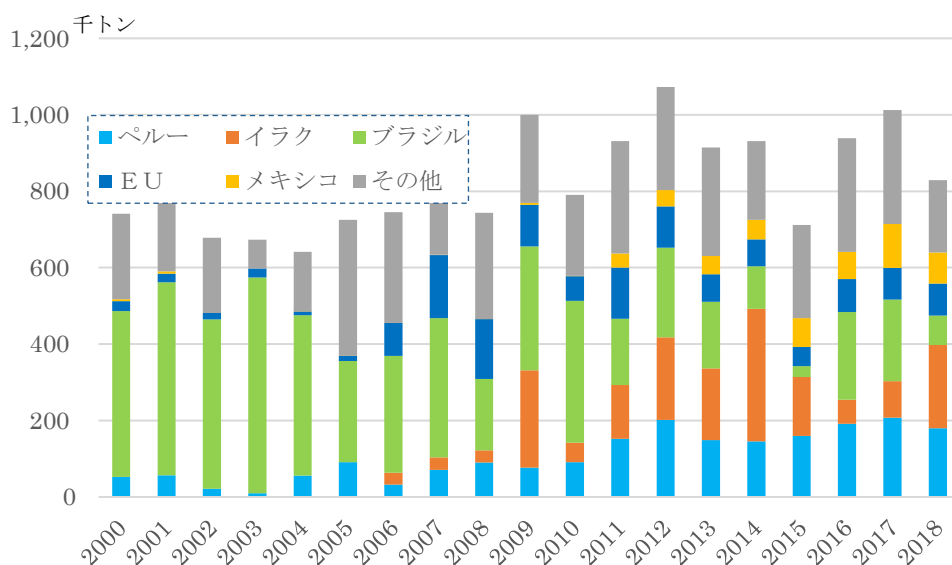
第10図 大豆の輸出先国別輸出量の推移

資料：国連 "Comtrade" から作成。

第10図は、右の色抜きが経済特区向けで左の色つき積み上げ簿が通関を通じた各国向けを表している。各国向けでは8割前後が中国向けとなっている。なお、ウルグアイ投資輸出促進庁の分析によると、経済特区を通じた輸出も含めて2019年の大豆の輸出額は1,002百万ドルで、そのうち中国向けが約77%を占めており、トレンドに大きな差異はない。

3) 米（HSコード：1006）

米については、第11図のとおり、かつて過半を占めていたブラジル向けが減少傾向にあり、輸出先が多角化している中で、ペルーやイラクのウエイトが高まっている。



第11図 米の輸出先国別輸出量の推移

資料：国連 "Comtrade" から作成。

7. 我が国との貿易

2019年の我が国におけるウルグアイとの貿易は、第10表のとおり、輸出額は機械類を中心に53億円余、輸入額が農林水産品を中心とした26億円となっており、我が国の全体の貿易額が約80兆円弱であることを踏まえると、取引関係は極々僅少である（貿易相手国として輸出で世界118位、輸入で115位）。

ウルグアイからの輸入では、第12図及び13図のとおり、農林水産品が増加基調にあるなかで、2016年まで50億円程度を記録していた化学製品に代表されるその他（工業製品等）の輸入が、2018年を境に急減した結果、2019年の農林水産品が輸入全体の98%を占めるに至った。農林水産品の輸入では、牛肉が2019年2月の輸入解禁後、一躍輸入のトップ品目（13.6億円で輸入額全体の45%を占める）となったが、我が国の輸入牛肉におけるウルグアイのシェアは第11表のとおり0.2%に過ぎない。

一方、我が国からウルグアイへの農林水産品の輸出はわずか8,818万円(2019年)と輸出全体の1.5%程度であり、このほとんどが介類(いわし 0303.53-000)である。

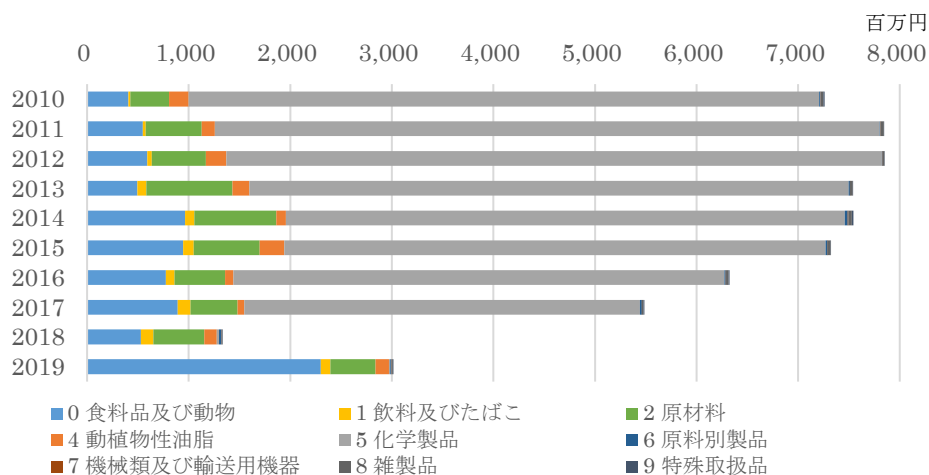
第10表 我が国のウルグアイとの貿易

概況品名(概況品コード)			2016	2017	2018	2019
我が国からウルグアイへの輸出合計(百万円)			6,118.2	7,073.4	7,060.7	5760.0
* 0	食料品及び動物		3.1	25.9	68.8	88.2
705	輸送用機器		1,102.6	1,606.0	1,957.9	1,612.3
701	一般機械		1,346.3	1,564.2	1,738.3	1,270.2
703	電気機器		1,079.7	1,088.9	1,179.3	1,138.8
20501	合成ゴム		983.4	1,144.5	566.7	320.2
我が国のウルグアイからの輸入合計(百万円)			6,325.3	5,486.4	1,336.2	3,017.2
* 00301	牛 肉		-	-	-	1,364.8
* 21103	羊 毛		475.4	428.8	434.8	400.5
* 00701	魚介類		395.9	514.0	167.6	342.5
* 10303	製造たばこ		77.9	12.0	95.1	60.8
* 01101	果 実		41.2	34.5	53.9	39.1
*	その他の農林水産品		444.6	444.8	489.8	749.1
	その他(工業製品等)		4,890.3	3,952.3	95.0	60.4
	農林水産品の割合(%)		22.7	28.0	92.9	98.0

資料：財務省「貿易統計」国別概況品別表から作成。

注(1) 概況品とは財務省「貿易統計」が定義する分類。10の大分類(コード1桁)が更に細分化(コード3桁, 5桁, 7桁)されている。

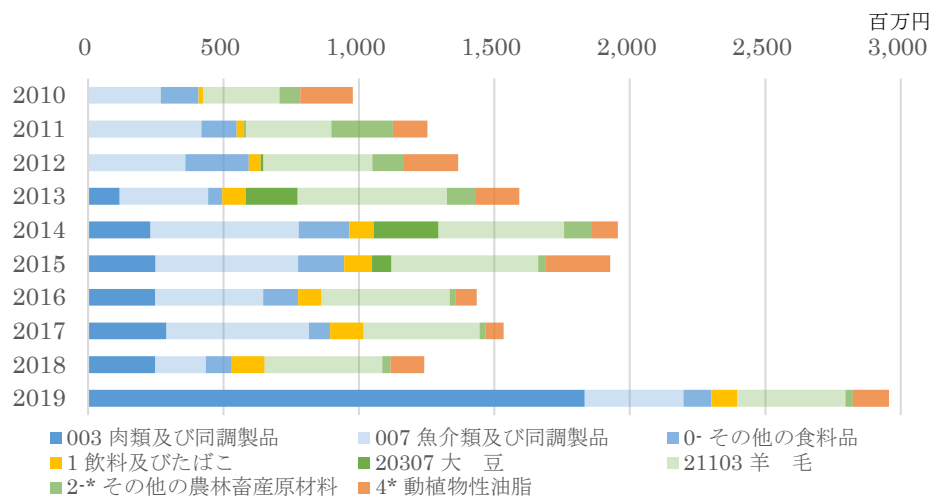
(2) * は農林水産品。農林水産品の対象は、概況品大分類の「0 食料品及び動物」及び「1 飲料及びたばこ」の全体と、「2 原材料」及び「4 動植物性油脂」から非農林水産品と思料される輸入実績のあるコード3桁ベースの概況品(「209 パルプ及び古紙」、「213 粗鉱物」、「215 金属鉱及びくず」及び「405 加工油脂及びろう」)を除外して集計した。



第12図 ウルグアイからの概況品(大分類)別輸入額

資料：財務省「貿易統計」から作成。

注. 概況品(大分類)には本図の項目に加え、ウルグアイから輸入実績のない「3 鉱物性燃料」が分類されている。



第13図 ウルグアイからの農林水産品の輸入額

資料：財務省「貿易統計」から作成。

第11表 我が国の国別形態別牛肉輸入量（額）

		2018				2019			
		輸入数量（シェア）		輸入額	単価	輸入数量（シェア）		輸入額	単価
		千ト	%	十億円	円/kg	千ト	%	十億円	円/kg
0201 冷蔵牛肉		278.8	100.0	232.5	834	274.9	100.0	231.6	843
	オーストラリア	127.4	45.7	105.6	829	125.2	45.5	105.4	842
	米国	136.5	49.0	113.8	833	126.9	46.2	107.1	844
	カナダ	5.3	1.9	3.6	682	10.9	4.0	7.6	701
	ニュージーランド	6.4	2.3	6.4	1,003	6.8	2.5	6.9	1,015
	メキシコ	3.1	1.1	2.9	934	3.9	1.4	3.2	813
	ポーランド	—	—	—	—	—	—	—	—
	ウルグアイ	—	—	—	—	1.1	0.4	1.2	1,075
	その他	0.1	0.0	0.2	2,995	0.1	0.0	0.2	2,847
0202 冷凍牛肉		328.6	100.0	151.5	461	340.5	100.0	152.8	449
	オーストラリア	184.2	56.1	83.5	453	168.3	49.4	77.7	461
	米国	110.9	33.8	51.7	466	114.1	33.5	48.6	426
	カナダ	15.9	4.8	6.6	412	32.0	9.4	13.4	420
	ニュージーランド	7.5	2.3	4.9	648	11.7	3.4	6.4	549
	メキシコ	9.4	2.9	4.4	474	10.6	3.1	4.8	451
	ポーランド	0.3	0.1	0.2	580	1.8	0.5	0.9	521
	ウルグアイ	—	—	—	—	0.3	0.1	0.2	697
	その他	0.3	0.1	0.2	759	1.7	0.5	0.8	502
牛肉合計		607.5	100.0	383.9		615.4	100.0	384.5	
	オーストラリア	311.7	51.3	189.0		293.5	47.7	183.0	
	米国	247.4	40.7	165.5		241.1	39.2	155.7	
	カナダ	21.3	3.5	10.2		42.9	7.0	21.1	
	ニュージーランド	13.9	2.3	11.3		18.6	3.0	13.4	
	メキシコ	12.4	2.0	7.3		14.5	2.4	8.0	
	ポーランド	0.3	0.1	0.2		1.8	0.3	0.9	
	ウルグアイ	—	—	—		1.4	0.2	1.4	
	その他	0.4	0.1	0.4		1.7	0.3	1.0	

資料：財務省「貿易統計」から作成。

8. おわりに

ウルグアイは南米の小国であり、我が国との貿易に関しても、世界的に見てあるいは南米の国の中でも大きなものとはなっていない。

しかしながら、従来からその自然条件を活かした農牧業が盛んな地域であり、近年、国の経済あるいは貿易面で農牧業の重要性が一段と増してきている。貿易では輸出先国に変化がみられ、かつては南米の近隣諸国、次いで EU 向けが中心だったが、近年は中国が最大の輸出相手国となっている。さらには、我が国を含む東・東南アジア諸国を農畜製品の新たな輸出先として考えている兆候がみられ、2019 年 2 月に、我が国においてウルグアイ産牛肉が輸入解禁となったのもその一つの事例であろう。

我が国における牛肉のウルグアイからの輸入量は現時点ではまだわずかである中、今後ウルグアイが、パイが既に飽和に近い我が国を輸出先として重要視するのか、あるいはパイの拡大余地が大きい他の東南アジア諸国を牛肉や他の農畜産品輸出先としてターゲットとするのか、また、我が国とメルコスールにおける貿易交渉の進捗があるのか、等々色々な要因が不確定な状況ではあるが、2019 年からの新たな動きがどのような展開を見せるのか、当面の動向が注目されるところである。

注 (1) 第3表では 58 万トンとなっているが、FAO と USDA という出典が異なることにより計数に差異が生じている。近年は差異が縮小しているが、1997～2014 年は差異が大きい。確たる原因は不明だが、USDA のデータは食用需要のみを計上していた可能性がある。

[引用文献]

ウルグアイ農牧水産省 (MGAP) 「統計年報」(各年)

<http://www.mgap.gub.uy/unidad-organizativa/oficina-de-programacion-y-politicas-agropecuarias/publicaciones/anuarios-diea>

ウルグアイ投資輸出促進庁 (Uruguay XXI) (2020) *Informe Annual de Comercio Exterior 2019*

ウルグアイ投資輸出促進庁 (Uruguay XXI) (2019) *Foreign Trade Report 2018*

ウルグアイ投資輸出促進庁 (Uruguay XXI) (2019) *Free Zones Exports of Goods*

<https://www.uruguayxxi.gub.uy/en/information-center/>

国連 "Comtrade" <https://comtrade.un.org/data>

国連 "National Accounts" <https://unstats.un.org/unsd/snaama/Downloads>

在ウルグアイ日本国大使館ホームページ

https://www.uy.emb-japan.go.jp/itpr_ja/uruguay-jyoho.html

財務省「貿易統計」 <http://www.customs.go.jp/toukei/search/futsu1.htm>

駐日ウルグアイ大使館ホームページ

<https://sites.google.com/site/jpemburujap/uruguay>

米国農務省 "PSD" <https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

FAO "FAOSTAT" <http://www.fao.org/faostat/en/#data>

FAO (Howard Elliott) "The strategic role of plant breeding in Uruguay: analysis through an agricultural innovation system framework (2010)"